

華やかな花詰が暮らしを彩る

くたにやき はなづめ 九谷焼(花詰) × すずき ともこ 鈴木 朋子 [石川県加賀市]

江戸時代初めおよそ370年前、加賀藩・九谷の地で磁器の原料となる磁石が採掘され、九谷焼の歴史が始まります。以来、多くの先人によって匠の技が受け継がれ、さらに新しい技術を磨き、創意工夫を重ねることで、世界的にも高い評価を得るまでになりました。その華やかさに心を奪われた鈴木さんは、北海道から石川に移り住み、先輩の助言を得ながら花詰を習得し、独自の世界を生み出しています。花詰とは、埋め尽くすように描いた花々の輪郭を金彩で縁取る技法で、大正期から盛んに用いられるようになりました。轆轤を回す作陶から手作業による繊細な絵付け、焼き上げまで、一つひとつ丁寧に心を込めて作り上げられた作品は、私たちの暮らしの中に彩を加え、温かな和みの時間を演出してくれます。



●「花詰壺 千紫万紅」

飾られる花は、描かれた花々と一体となって、一層鮮やかに、豪華に咲き誇る。



●「花詰輪花皿 花のほころび」

菓子や果物、あるいは料理など、何を載せるのも自由。もてなす人の心がそっと伝わる。



●「花詰コーヒーカップ」

久しぶりに友人をお茶に誘いたい。きっと会話が弾んでくる。



●「花詰獅子香炉」

花詰の衣装をまとった獅子は、そばに置きたくなるほど愛らしい。



●「花詰盃」

ハレの日には、ぜひこんな盃で家族や友人と酌み交わしたい。



一輪の花から咲き乱れる花の世界を描き上げていく。

【華窯(かよう)】

石川県加賀市

Email : ha7zume.k@gmail.com



鈴木 朋子 (九谷焼作家)

1984年 北海道生まれ
2006年 北海道教育大学芸術文化課程卒業
2008年 石川県立九谷焼技術研修所卒業
2011年 石川県内の窯元勤務を経て独立
2015年 NHK-BSプレミアム ドキュメンタリー番組『イッピン』にて紹介される
2024年 伝統九谷焼工芸展連合会新人賞 受賞

現在、花詰技法を中心に作陶活動中

Instagramは
こちらから

